



鳳鳴高校生が広島市の「被爆の子の像」前で平和宣言。

整備すること、駅前再開発の方向も変わってくるのではないでしょう。わたくしたちは、地元の方々を無視してまで事業実施はできないと考えています。

また、大館の地価が高いため、商店街などがどんどん高層化していつてほしいと期待はしているのですが、三階以上の店になると入るお客さんは少ないといわれています。このようなことなどで市街地の改造はたいへん難しい側面を持っているのです。

次に大型店問題についてですが、消費者から見ると、「どんどん競争したほうがよい」といいますが、小売店の権利ということをもったく無視して大型店と競争させることはできないと思います。現在の大館市にある大型店は、小売店全体の売場面積の一四%を占めています。

ます。そこで、その売場面積については、小売店と大型店が共存できるように、いま商調協で話し合っているところなのです。ちなみに秋田市の場合は、二五%とな

今が平和だから

この平和を侵されたくない

司会 さて話しは変わりますが皆さんは昨年修学旅行で「広島」へ出かけたそうですね。おりしも今年は「国際平和年」ということで、この「平和」について考えてみたいと思います。皆さんは、どうして修学旅行の行き先を「広島」としたんですか。

庄司 学校側で、京都・奈良コース、岡山コース、広島コースの三コースを設定し、アンケートを取った結果、広島コース希望者が七割以上でした。いままでの京都奈良コースも考えられましたが、原爆のまち広島を見たいという気持ちの人が多かったんじゃないでしょうか。

広島から 平和の尊さを感じる

司会 広島を見てどう感じましたか。

庄司 広島は、世界で最初に被爆した都市として有名でしたので一度見たいと思っていました。そこで、原爆の悲惨さを目のあたりに見て悲しい気持ちになりました。**日景** 広島で一番見たかったのが、資料館と原爆ドームでした。原爆ドームを見たときは、これが

つています。しかし、各商店とも明るくお客さんに親しまれる店づくりや店員教育などに力を入れることにより、お客さんを集めることができるのではないのでしょうか。

らはこういうことは絶対あつてはならないということ強く感じました。資料館では、被爆者の体験談を聞いてとても感動しました。反核の気持が一段と強まりました。赤坂・今の広島は、あまりに都会化しており、戦争の傷跡は原爆ドームぐらいだけ。時の流れのようなものを感じました。

嶋田 私の場合、この三人と班が違いました。その日はあいにく雨のためバスの中からの見学が多かったのですが、そのかわり被爆体験者の話をたくさん聞くことができました。話を聞いて自分の



嶋田くん

胸の中は、なんと言っているのかわからなくなりました。そして雨の中を、友だちと二人で記念碑まで行って黙とうし、平和の尊さをかみしめてきました。帰ってきたから、みんなで修学旅行の感想文を書いたんですが、ほとんどの人たちが広島のことについて書いて

ていました。これは、みんなが平和の尊さを広島から感じとったからではないでしょうか。

市長 広島には私は昭和四十六年に慰霊祭に参列したのを始め、何度も足を運んでいます。その都度やはり平和への感を強くしますね。

司会 皆さんは「平和」と聞いて、何を考えますか。

庄司 兵器をなくすこと。**日景** ほかの国から武力などでおびやかされることがなく、ごく普通に暮らせることが平和だと思います。

赤坂 空から戦闘機の爆音が聞こえなくなること。同じように陸にも海にも戦いの火が消えることだと思います。

嶋田 今が平和だと思っているから、特に意識はしてません。

市長 「平和」と言えば、国や国会の問題だと考えるのではなく、朝起きたときに「ああ、平和だな」と思う気持ちが大切です。一人ひとりが平和でこそ、国の平和につながるかと考えて行動したいものです。現在、世界の軍事費は年間二百兆円と言われています。この費用を生産面に生かしたら、もっと違った別の世界ができるでしょう。

司会 これから二十一世紀を担う若い人たちが、東も西もない平和な社会をつくり上げるとしたらどんな役割があると思いますか。**市長** 考え方はたくさんあると思いますが、一方だけに組まないで、中立な立場で「核もいらないし、軍備もいらない」と先に立って言える立場に日本はいます。こ

れをあなたたち若い人が声を大にして世界へ呼びかけてほしいと思います。

日景 僕も世界の平和づくりのためのリーダーになつていくような国をつくつていかなければならないと思います。

嶋田 戦争が起きそうになったときに、断固反対していくことが私たちにできる方策ではないでしょうか。



嶋山市長

市長 大館市は、昭和五十八年十二月に平和都市宣言をしました。が、単に平和都市宣言をするだけではなく、「私たちに兵器などはありませんよ」と世界に主張することが大切です。また、日本の約三割の都市が平和都市宣言をしており、この平和の輪を広げて五割以上になったら、世界に真の平和宣言をしたらいと考えています。今年は「国際平和年」ということで、こうしたことをするきっかけの年としたいと思っています。若い皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

司会 今日は長時間にわたつてどうもありがとうございました。
※なお編集の都合により、座談会の一部を割愛させていただきます。ご了承ください。